

# フィリピンからの便り 寄稿文

2017/6/29

青年海外協力隊 平成 27 年度 4 次隊

フィリピン隊 美谷添 三希郎

1975 年 11 月 19 日生まれ 41 歳

岐阜県郡上市八幡町出身

セブ州ヒナティラン町

テーマ：農民グループと協働し、有機野菜栽培生産から生活向上を目指す

セブと言えば、国際的にも観光地として有名ですが、私の任地ヒナティラン町は人口僅か 16,000 人、海と山に囲まれ、農業と漁業が中心となっている小さな町です。セブ島最南端からわずか 15 km ほど北西に位置するヒナティラン町役場の農業事務所職員と共に、農民グループへ有機野菜栽培指導と技術伝達により生計向上支援を行っています。フィリピン国では 2010 年に有機農業法が制定されて以来、各市町村の農業事務所職員は有機農業を推進する必要がありますが、有機農業を実践して教える事が出来る役場職員は少なく、多くの場合は有機農業転換への移行期であるといえます。



1：町のシンボルになっている教会

2016 年 6 月に任地入りし、まずは情報収集から始めました。まず驚いたのは、この地域では専門に野菜栽培を行う農家がほとんどいませんでした。それは水資源が限られ、他の地域と比べ降水量が少なく、農家は稲作の代わりに主食用トウモロコシを輪作栽培して生計を立てています。急こう配の山肌で、輪作で痩せてしまった土壌では収穫量は 1 ヘクタール当たり約 1 トンほどにしかならず、農家の純利益はわずか 8,800 ペソ (約 20000 円ほど、1 円 = 0.44 ペソ)。灌水も雨雲頼みです。私が「農業用水資源はあるの？」と聞いた時、不思議な顔をされた事をよく覚えています。野菜を育てる為に、雨水だけではなく、湧水が必要であるという事に驚きを隠せなかった様子です。私の最初の仕事は水の安定供給が出来る水資源を山々を歩いて



2：山間部の農家とトウモロコシ畑

探す事から始まりました。

野菜栽培よりもまずは土作りから  
農業分野の協力隊員にとって、1年9ヵ月という時間は何か新しいプロジェクトを推進し、地元の農民に技術を継承・持続してもらうには、とても短期間となります。しかし、野菜生産の土台となる土作りは、必要不可欠かつ時間を要します。配属後、すぐに被覆作物と緑肥を作付け、3ヵ月後に土壌にすき込みました。同時にヒナティラン町の町長をお願いして、小規模のコンポスト作成用建屋を建設して頂きました。



3：好気性コンポスト作成ワークショップの様子

現在は地元で簡単に入手できる素材を利用して好気性コンポストを定期的に作成しています。私はいつも「コンポストと有機肥料のどちらか一方では、持続的生産が可能な土作りにならない。コンポストは与えた有機肥料を長く表土に保つためのコンディショナー的役割があり、両方を同時に使って、初めて相乗効果が表れる」と農業事務所と農村の方々に伝えています。

野菜生産の要、ナーセリー

フィリピン国のような亜熱帯気候地域では、年中を通じて病害虫が頻繁に発生します。こうした状況下では、移植苗を管理し易い環境下で育ててから圃場に移植した方が、病害虫被害が直播よりも減ります。ナーセリーは様々な野菜栽培に応用が利き、リーフレタスなど葉菜類をポット苗生産で収入を得る事も出来ます。ここでも地元で入手できるものを配合し、燻蒸消毒を施した無菌土壌(メディア)を使用しています。現在、アナオ村農民グループはリーフレタスを週1回ペースで収穫、地元販売しており、定期的に収入を得る事が可能になりました。



4：有機野菜栽培デモファーム

まずは新鮮で高品質な野菜生産と地産地消を目指す

「有機栽培野菜を作っても、セブ市は遠いし、地元には売れるマーケットが無いよ。」と農家の方が嘆いていました。それは外に目を向けていた為でした。幸いヒナティラン町の隣町はジンバイザメ観光で有名になっているオスロブ町です。山間部の野菜生産者にとって、ヒナティラン町に降りるのも

反対側のオスロブ町に下るのもそれほど大差がなく、地元農家がマーケットニッチに合わせ、高品質の野菜を安定供給する事が出来れば、十分に地産地消してゆける可能性があります。「マーケット展開はコツコツ地元から広めよう」という私の意見を信じ、農民グループは生産・収穫・ポストハーベストプロセス・販売の一貫を担う形を取っています。現在は小規模生産なので、ファームから食卓へという流通形式をとっています。

私は、日本でも海外でも生産者の顔が消費者から見える、消費者の笑顔が生産者に見えるという情報伝達は非常に重要な繋がりだと考えています。安全・安心・そして消費者に食べて喜ばれる野菜を提供することを強調し、高品質な野菜生産には手間暇が掛かること、でも農家の努力と愛情が実感できる場は、やはり消費者の笑顔と良いフィードバックをもらえた時です。

残りの任期は約9ヵ月となってしまいましたが、限られた時間の中で、地元のレストランやホテルへ新鮮野菜を安定供給する事が出来るだけの技術向上を目指し、任期終了前に農家と地元レストランとの契約栽培が結べるよう支援してゆきたいと思います。



5:支援対象のひとつ、アナオ村農民グループの皆さんと一緒に